

# 2016年3月期 第2四半期決算説明会



2015年11月17日

**ユニチカ株式会社**

## 1. 2016年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

## 3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント情報の変更による事業構成の変更
- ・セグメント別業績予想

## 補足資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

## 1. 2016年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

## 3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント情報の変更による事業構成の変更
- ・セグメント別業績予想

## 補足資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

# 業績の概要

産業繊維事業の構造改革などが大きく影響し、全体では減収。

産業繊維事業を中心とした事業ポートフォリオ改革が奏功し、原燃料価格の好転などの効果もあり増益。

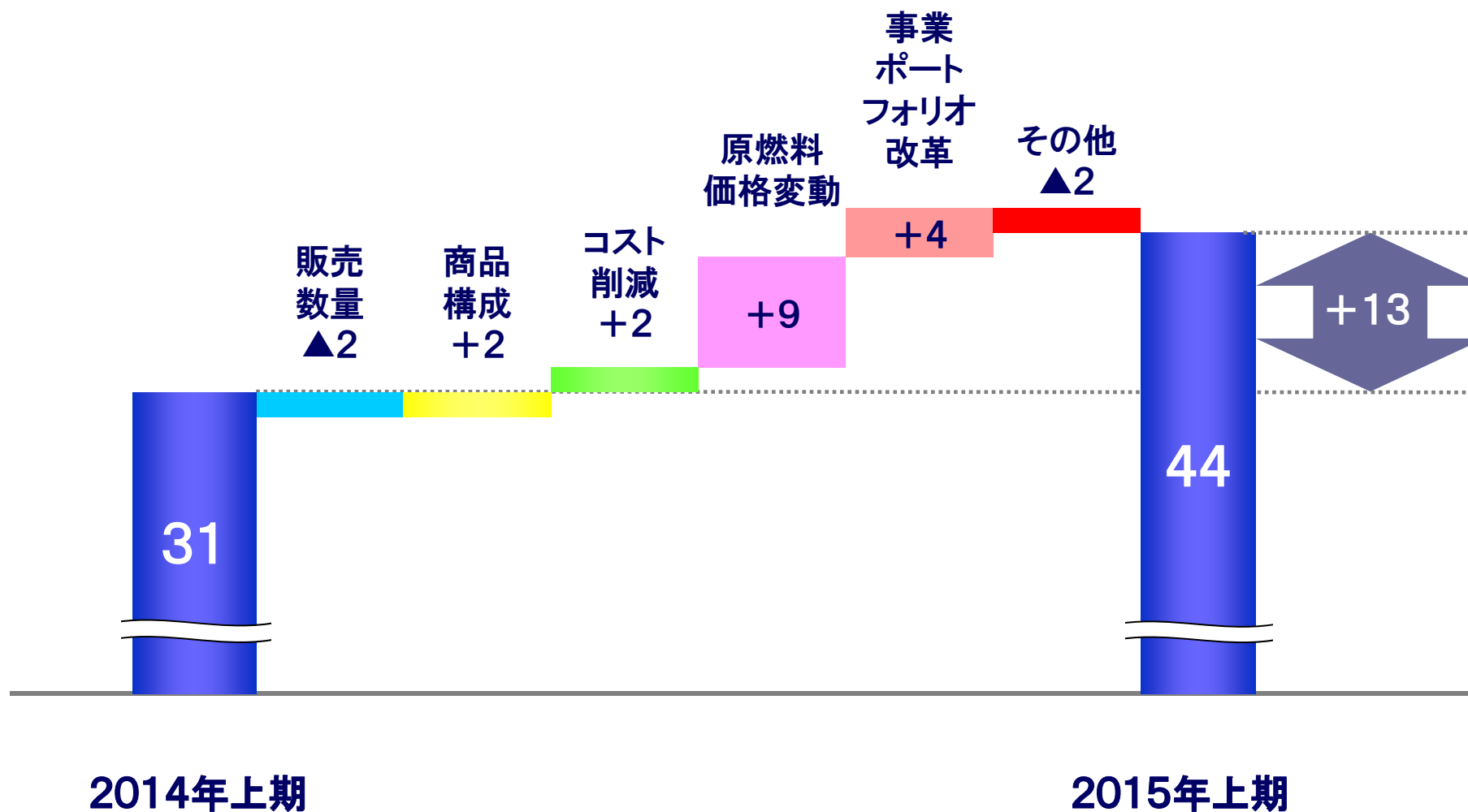
事業構造改善費用として5億円の特別損失を計上。前年同期は事業ポートフォリオ改革の一環として多額の事業構造改善費用を計上。

連結合計 (金額単位:億円)	14年上期 実績	15年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	776	733	▲44	▲6%
営業利益	31	44	13	42%
営業利益率	4.0%	6.0%	—	2.0%
経常利益	21	31	9	44%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲216	17	233	—

セグメント別 (金額単位:億円)	14年上期 実績	15年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	776	733	▲44	▲6%
高分子事業	280	281	1	0%
機能材事業	60	56	▲4	▲7%
繊維事業	369	328	▲41	▲11%
その他	67	68	1	2%
営業利益	31	44	13	42%
高分子事業	25	38	13	51%
機能材事業	6	7	1	19%
繊維事業	1	6	5	755%
その他	▲0	▲6	▲6	—

# 営業利益変動要因分析

(金額単位:億円)



# 資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2015年3月末	2015年9月末	増減
<b>資産合計</b>	2,359	2,266	▲93
流動資産	1,128	1,058	▲70
固定資産	1,231	1,208	▲23
<b>負債合計</b>	2,043	1,939	▲104
<b>純資産合計</b>	316	327	+11
株主資本	292	286	▲6
その他の包括利益累計額	▲8	8	+16
非支配株主持分	32	33	+1
<b>有利子負債</b>	1,339	1,322	▲17
<b>自己資本比率</b>	12.0%	13.0%	+1.0%

## 1. 2016年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

## 3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント情報の変更による事業構成の変更
- ・セグメント別業績予想

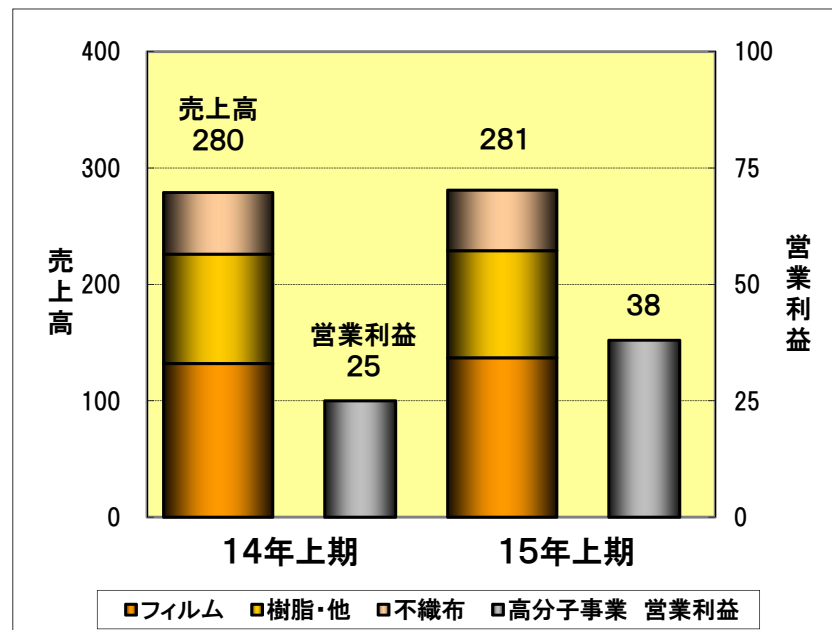
## 補足資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

# 高分子事業の状況

## 高付加価値品の販売拡大や原油安などの影響を受け増益

(金額単位:億円)	14年上期	15年上期	増減
高分子事業 売上高	280	281	1
フィルム	132	137	4
樹脂・他	94	92	▲2
不織布	53	52	▲1
高分子事業 営業利益	25	38	13



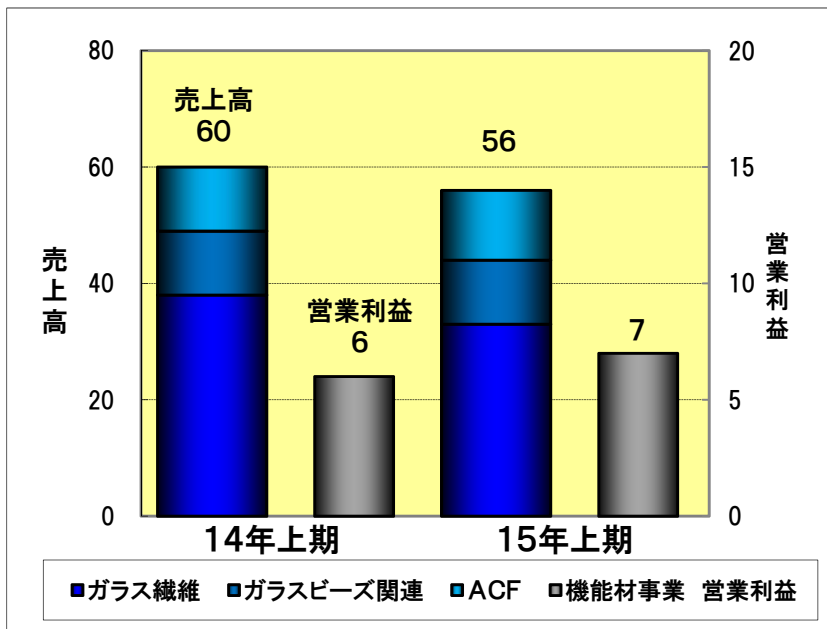
<input type="checkbox"/> フィルム [増収・増益]	◆包装分野 夏場以降に食品包装用途の国内需要が増加し好調に推移。 ◆工業分野 耐熱ポリアミドフィルムなど高付加価値品の販売が電気・電子機器用途で拡大。
<input type="checkbox"/> 樹脂 [横ばい・増益]	◆ナイロン樹脂 自動車用途の低迷により売上横ばい。 ◆「エリーテル」「ユニレート」「アローベース」などの機能性樹脂は電気・電子機器用途等で堅調。 ◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」 情報端末機器用途で好調に推移。
<input type="checkbox"/> 不織布 [減収・増益]	◆ポリエステルスパンボンド 生活資材用途で堅調に推移したが、農業用途や建築用途等を中心に売上げが減少。 ◆コットンスパンレース インバウンド需要の拡大を背景に、国内の生活資材用途で売上げが拡大。



# 機能材事業の状況

## ガラス繊維事業は、ICクロスの販売が低調も増益を確保

(金額単位:億円)	14年上期	15年上期	増減
機能材事業 売上高	60	56	▲4
ガラス繊維	38	33	▲4
ガラスビーズ関連	11	11	▲0
ACF	11	12	0
機能材事業 営業利益	6	7	1



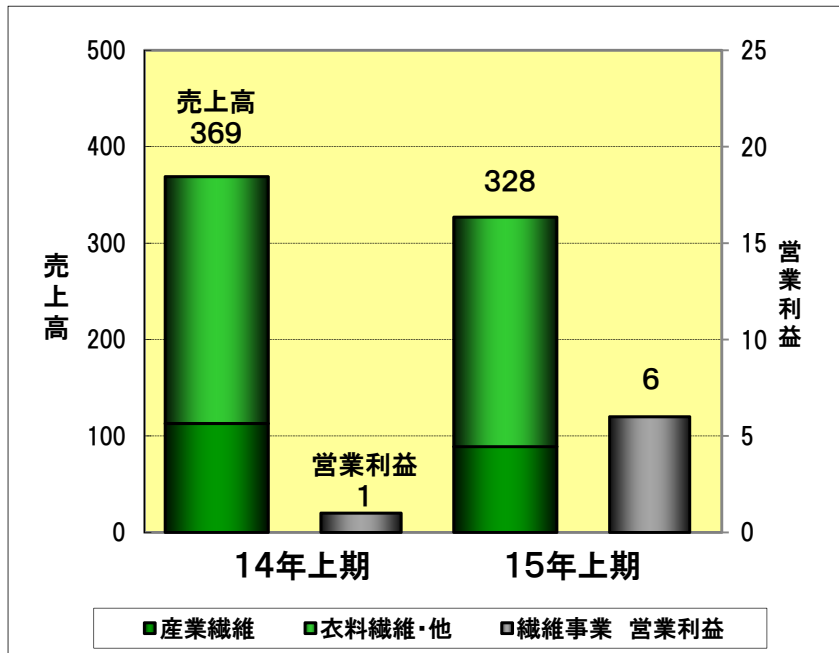
### □機能材 [減収・増益]

- ◆ ガラス繊維・産業資材分野  
建築用途の販売が堅調であったが、土木用途が低調に推移。
- ◆ ガラス繊維・電子材料分野  
ICクロスは、情報端末機器用途で汎用品の販売が低調も、高付加価値品の販売が堅調。
- ◆ ガラスビーズ  
ロードマーキング用途で販売数量が回復したが、工業用途や反射材用途で売り上げが減少。
- ◆ 活性炭繊維  
工業分野などで堅調に推移したが、主力の浄水器用途で需要が回復せず。

# 繊維事業の状況

## 産業繊維は、低採算品の縮小や高付加価値品への転換により収益改善

(金額単位:億円)	14年上期	15年上期	増減
繊維事業 売上高	369	328	▲41
産業繊維	113	89	▲23
衣料繊維・他	256	238	▲18
繊維事業 営業利益	1	6	5



□ 繊維  
[減収・増益]

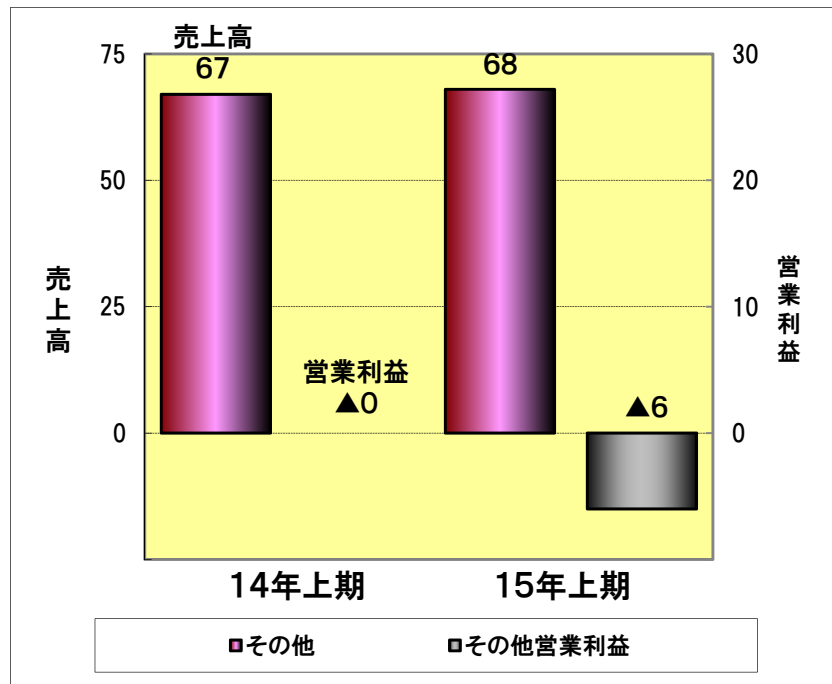
◆ 産業繊維  
ポリエステル高強力糸は、土木用途で低調であったが、複合繊維など高採算品への販売転換が進み収益が改善。  
ポリエステル短繊維は、事業構造改革に伴う低採算製品の販売縮小と高採算製品への販売転換が進み、収益が大きく改善。

◆ 衣料繊維  
ユニフォーム分野は、ワーキング用途の在庫調整などにより売り上げが減少。  
レディス分野は、二次製品販売が堅調に推移したが、スポーツ分野は国内市場で苦戦。  
海外ではデニムの輸出が好調に推移。

# その他の状況

## 事業ポートフォリオ改革に伴う譲渡・清算などの実行により減益

(金額単位:億円)	14年上期	15年上期	増減
その他 売上高	67	68	1
その他 営業利益	▲0	▲6	▲6



□その他 [増収・減益]

- ◆不動産関連  
不動産関連の販売増などにより、売り上げが増加。
- ◆その他  
事業ポートフォリオ改革に伴う譲渡、清算などの実行により事業規模が縮小。

## 1. 2016年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

## 3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント情報の変更による事業構成の変更
- ・セグメント別業績予想

## 補足資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成

# 2016年3月期通期業績予想

## 成長戦略のさらなる推進により年度計画を達成する

(金額単位:億円)	2015年3月期 実績	2016年3月期 予想	前期比 増減
売上高	1,591	1,450	▲141
営業利益	89	113	24
経常利益	77	88	11
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲270	30	300

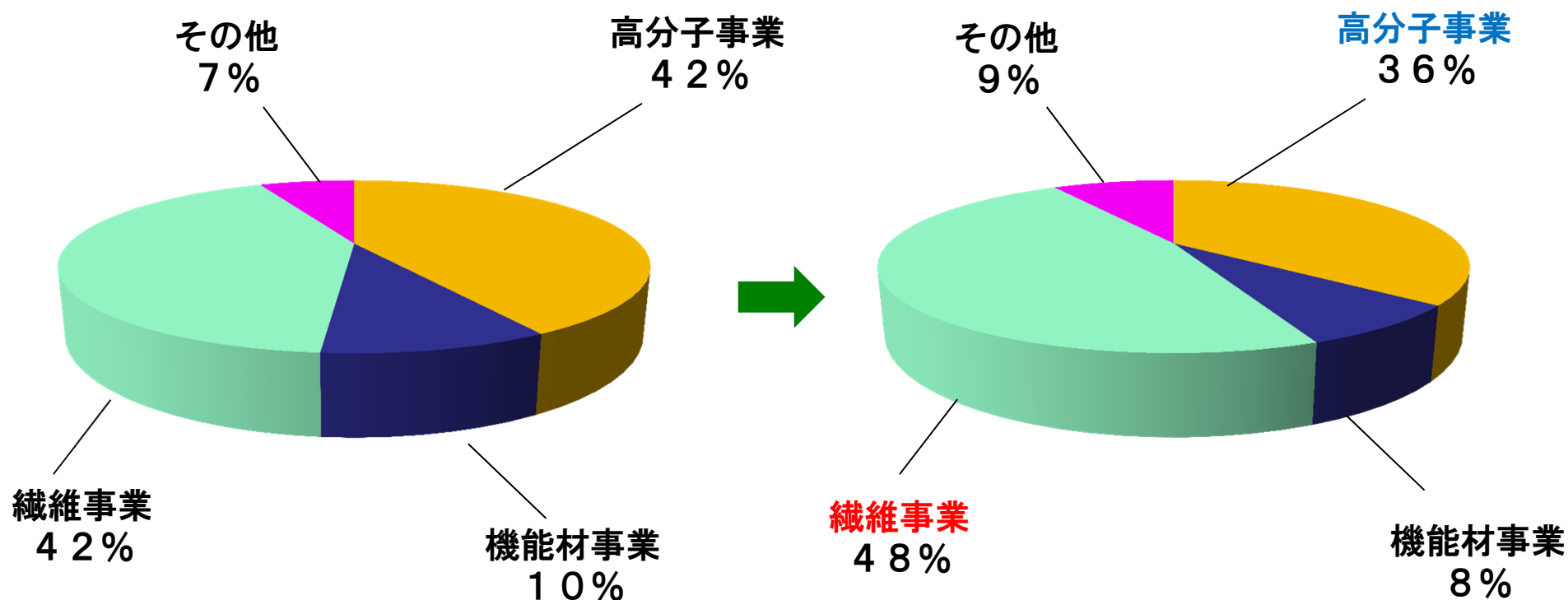
下期前提	2016年3月期
原油(\$/バレル)	65
為替(円/\$)	120

◆ 当社グループは高分子事業の成長戦略推進を図るとともに、事業ポートフォリオ改革を完遂し収益の確保に努める。

- ▶ 成長戦略施策をさらに推進し、収益拡大につなげる。
- ▶ 事業ポートフォリオ改革を完遂し、不採算分野の見直しを完了させる。

# セグメント情報の変更による事業構成の変更

2015年3月期第2四半期実績による比較



# セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な利益変動要因と下期の見通し
	2015年 3月期実績	2016年 3月期予想	前期比 増減	2015年 3月期実績	2016年 3月期予想	前期比 増減	
高分子事業	556	600	44	63	80	17	<p>新バリアフィルム「エンブレムHG」や耐熱ポリアミドフィルムの販売拡大。</p> <p>エンブレムアジアのナイロンフィルム新機台稼働が更に収益に寄与。</p> <p>「アローベース」「ゼコット」の用途展開の加速。</p> <p>タスコにおける生産設備の増設に向けて、グローバルシェア拡大中。</p>
機能材事業	118	120	2	12	13	1	<p>ICクロスの差別化を更に深化することで、情報端末機器用途へ拡販。</p> <p>活性炭繊維における浄水器用途や新規用途での海外展開の加速。</p>
繊維事業	751	660	▲91	12	25	13	<p>産業繊維 複合繊維など高付加価値品への商品構成変更、不採算品のさらなる圧縮による収益力強化。</p> <p>衣料繊維 ASEAN、中国での販売強化。国内の高付加価値品拡販。</p>
その他	166	70	▲96	1	▲5	▲6	事業ポートフォリオ改革の完遂。
合計	1,591	1,450	▲141	89	113	24	

## 1. 2016年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

## 3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント情報の変更による事業講師の変更
- ・セグメント別業績予想

## 補足資料

- ・中期経営計画の進捗
- ・事業構成



## 成長戦略

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア新機台製品の国内展開 及び東南アジア市場での拡大		4月より本格稼働開始。 販売量は1.3倍に拡大。	○
	新バリアナイロンフィルムの展開		ボイル・レトルト食品向けに開発した 新バリアフィルム「エンブレムHG」を 販売開始。 当期より実績化。	△
	耐熱ポリアミドフィルムの拡大		ユニチカのフィルム加工技術を駆使 して開発した耐熱ポリアミドフィル ム。 販売量は1.3倍に拡大。	○
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム 「ユニピール」などの高付加価値ア イテムを拡販中。 販売量は6.5倍に拡大。	○

## 成長戦略

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		新グレードの開発完了、販売開始。 販売量は2.7倍、順調に拡大。 海外展開強化。	○
	「ゼコット」の拡販		電気・電子機器分野で販売開始。 自動車部品分野で高評価、スペック インを目指して活動中。 各種用途展開も検討中。	△
	高機能性PETの拡販		「ユニレート」「エリーテル」などの差 別化アイテムを拡大中。 販売量は1.3倍に拡大。	○
不織布	タスコの新機台増設に向けてのアジアグ ローバルシェア拡大		マーケティング強化。 約40億円の投資決定し、実行中。 2017年4月稼働予定。	(○)

# 中期経営計画施策の進捗

## 事業ポートフォリオ改革

	主な事業・子会社	事業概要	実行日
株式譲渡	ユニチカ京都 ファミリーセンター	フィットネスクラブ経営管理 他	2015/ 2/27
	ユニチカ赤穂開発	ゴルフ場(赤穂CC)経営	2015/ 3/30
	ユニチカバークシャー	ストッキング、ソックス等製造販売	2015/ 4/ 3
	ダイアボンド工業	接着剤等製造、販売	2015/ 5/21
	ユニチカ情報システム	システム受託開発 他	2015/ 6/ 1
	ユニチカ環境技術センター	一般化学分析 他	2015/ 6/30
事業譲渡	メディカル事業	医療機器等製造販売	2015/ 3/31
	生活健康事業	健康食品等製造販売	2015/ 3/31
	金属繊維事業	金属繊維製造販売	2015/ 9/30
清算終了	ユニチカエヌピークロス	乾式不織布製造販売	2015/ 8/28
	ユニチカゴルフイング垂井	ゴルフ練習場経営	2015/ 9/30

## 事業ポートフォリオ改革

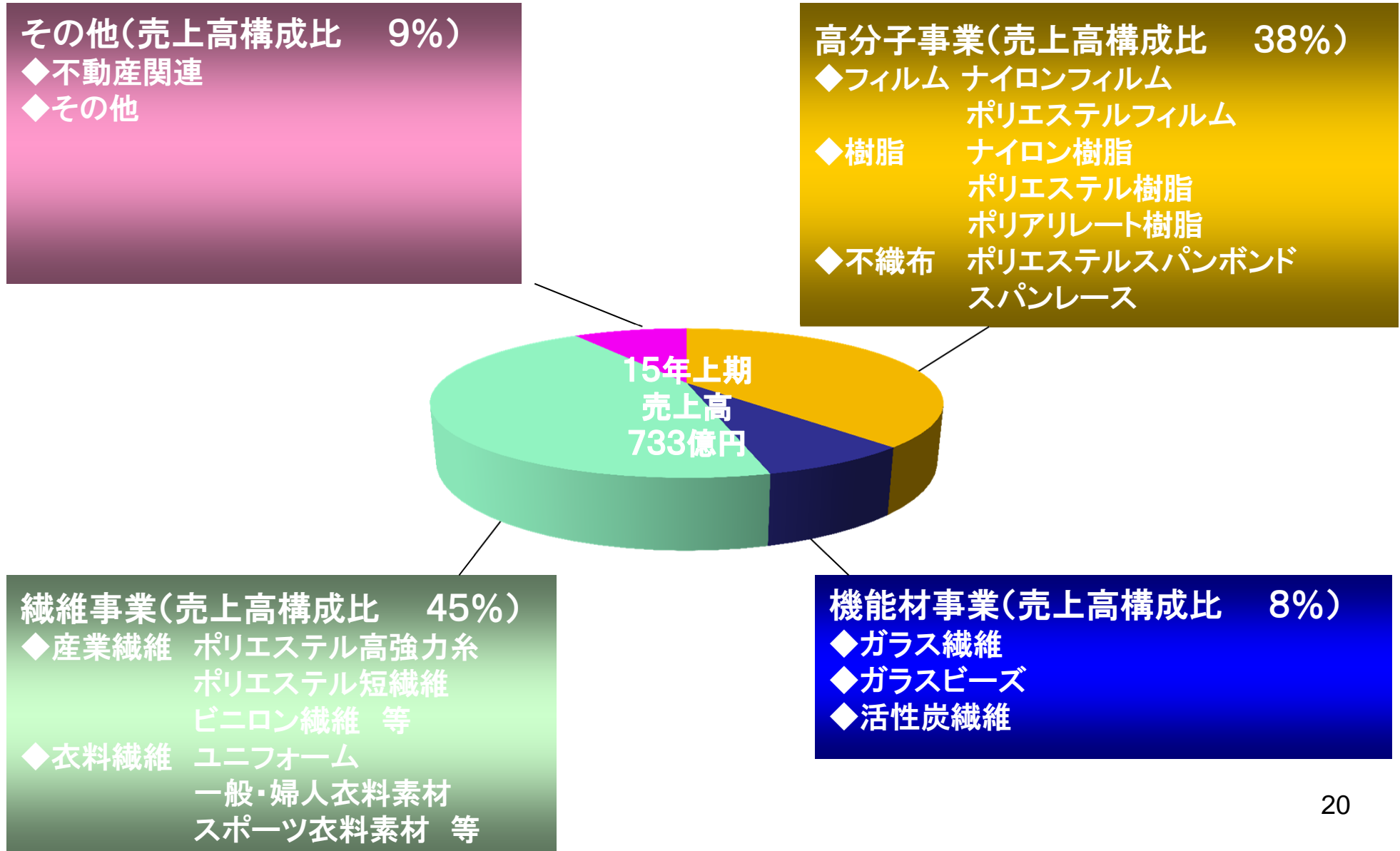
	主な事業・子会社	事業概要	状況
不採算 分野縮小	ユニチカスピニング (佐賀工場閉鎖)	繊維製品製造加工販売 等	長崎工場 集約済み
	ポリエステル短繊維事業 (構造改革)	ポリエステル短繊維製造販売	ほぼ終了
	ビニロン事業 (生産停止)	ビニロン繊維製造販売	実行中

## 管理コスト削減と組織機能強化

2015年上期のコスト削減効果は 2億円。 管理コストの削減は引き続き実行中。

2015年4月に組織改定と人事制度改定を実施。

# 事業構成



## ご注意

**本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。**